

令和5事業年度

事業計画書

日本中央競馬会

日本中央競馬会令和5事業年度事業計画

I 事業運営の基本方針

1. 経営の基本方針

JRAでは、事業運営を行っていくうえで、具体的な施策の構築や事業の執行の際の指針とするために、「経営の基本方針」を定めています。「令和5事業年度事業計画」は、この「経営の基本方針」に基づき策定しています。

経営の基本方針

JRAは、毎週走り続けます。

○お客様とともに

私たちは、お客様を第一に、皆様にご満足いただけるよう取り組んでいきます。

○夢と感動とともに

私たちは、レースの迫力、馬の美しさ、推理の楽しみが一体となった競馬の魅力を高め、夢と感動を皆様にお届けします。

○信頼とともに

私たちは、快適で安全な環境のもと皆様から信頼される公正な競馬を着実に実施していきます。

○社会とともに

私たちは、皆様に親しまれる競馬の開催を通じて社会への責任を果たし、持続可能でよりよい社会の実現に貢献していきます。また、馬に寄り添い、馬文化を育んでいきます。

○そして未来へ

私たちは、歴史と伝統のある競馬の発展に努め、国際的なスポーツエンターテインメントとしての競馬を皆様とともに創造していきます。

2. J R A を取り巻く環境

令和4年10月内閣府発表の月例経済報告によると、景気は「緩やかに持ち直している。」とされており、先行きについては、「ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。」とされています。

このような状況の下、令和4事業年度の中央競馬については、経済社会活動の正常化が進む中で、開催競馬場におけるお客様の入場制限の緩和等に取り組んだ結果、発売金・お客様総数ともに堅調に推移しています。しかしながら、近年の夏季における気温上昇や自然災害の増加、少子高齢化の一層の進行やこれに伴う生活スタイルの変化、雇用や労働環境の多様化、デジタル化の急速な進展等がJ R Aの事業運営をはじめ競馬産業全体に大きな影響を及ぼすことも懸念されることから、先行きについては決して楽観視できない状況です。

3. 令和5事業年度の取組みとJ R Aが目指す方向性

令和5事業年度経営目標については、将来にわたる事業運営の安定化と経営基盤の強化を図るとともに、競馬の施行を通じた社会貢献を果たしていくことを目指し、「事業運営の根幹となる開催日数288日（36開催）の競馬の着実な実施」と「魅力ある競馬開催によるお客様総数の拡大―対前年比100%超」を基本目標として掲げています。J R Aでは、競馬の魅力をもっと向上させるとともに、お客様の獲得と定着化を図るため、競馬番組の充実と質の高い競走の提供をはじめとした様々な施策を実施します。

また、あらゆる事業活動において、新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底するとともに、「コロナ禍を経て生じた人々の価値観・行動様式の変化」や「SDG s〔Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）〕をはじめとした社会環境の変化」、「馬の福祉の充実」といった中央競馬を取り巻く諸課題にも未来視点をもって積極的に取り組み、今後の事業運営をさらに適正に実施していきます。

さらに、事業運営の方向性としては、J R Aさらには競馬産業全体が安定的かつ持続的に発展していくことが重要であり、そのためには、競馬の施行が環境や経済等社会全体に与える影響とJ R Aを取り巻く環境を意識しつつ、競馬の社会的基盤を強化していくことが必要となります。こうしたことから、今後とも、お客様からも社会からも「信頼される存在」であり続けること、J R A及び競馬産業の事業基盤を強化していくこと、中央競馬事業の運営等に必要原資を安定的に確保していくことに取り組んでまいります。

Ⅱ 令和5事業年度の具体的計画

1. 魅力ある競走の提供

お客様に長期にわたって中央競馬を楽しんでいただくためには、常に魅力ある競走を提供していくことが重要です。一方で、競馬番組に基づき行われる競走は、競走馬のサイクル（生産→育成→調教→競走→生産還元）の中核を成す重要なステージでもあります。

こうした観点から、

- ① 競走馬の国内生産に立脚した競馬を基本としつつ、内国産馬と外国産馬が競い合いながら、頂点のG I競走へ向かうというシンプルでわかりやすい競走体系を構築すること
- ② 優勝劣敗の原則に基づいた競走・賞金体系を構築し、質が高く、能力の拮抗した出走馬による内容・出走頭数の充実した競走を提供すること
- ③ 次世代に伝えるべき優良馬の選択という競走の原点を踏まえ、G I競走等において国内外の有力馬が集結し、中央競馬が世界のチャンピオンホースを決定する重要なステージとして世界の競馬地図の中に位置付けられること

を念頭に、魅力ある競走の提供のための各種施策に取り組みます。

(1) 開催計画

1月5日（木）から12月28日（木）の間に、延べ288日（36回）の競馬を全国10か所の競馬場において開催します。

また、より多くのお客様にご参加いただくため、1月9日（祝・月）、9月18日（祝・月）及び10月9日（祝・月）に競馬を開催します。

これらに加え、京都競馬場整備工事等の影響を踏まえ、各競馬場の開催回数及び開催日数は以下のとおりとします。

競馬場	札幌	函館	福島	新潟	中山
開催回数	2	2	3	4	5
開催日数	14	12	20	26	42

競馬場	東京	中京	京都	阪神	小倉
開催回数	5	4	3	5	3
開催日数	45	32	29	46	22

なお、天災地変その他やむを得ない事由により当初の計画どおり開催することができない場合には、競馬法（昭和23年法律第158号）第3条の規定に基づき競馬法施行規則（昭和29年農林省令第55号）第2条で定められている範囲又は日取りで開催計画を変更して開催します。

(2) 重賞競走の改善

① 紫苑ステークスのGⅡ昇格

秋華賞(GⅠ)の前哨戦として近年競走内容が充実している紫苑ステークス(GⅢ)のGⅡ昇格について、日本グレード格付管理委員会に申請中であり、承認が得られた場合、格付表記を変更します。

② 開催日割の変更に伴う実施場の変更

開催日割の変更に伴い、一部重賞競走の実施場を変更します。

(3) 国内外の一流馬及び騎手の参加促進

国内における国際競走が魅力ある競走となるよう、「ジャパン・オータムインターナショナル」をはじめとしたGⅠ競走の更なる振興を図るとともに、新設された東京競馬場の国際厩舎の活用を図るなど、一流の外国調教馬の参加を促進するための取組みを行います。

また、8月26日(土)・27日(日)(第2回札幌競馬第5・6日)に、国内外から実力や話題性のある騎手を招待して、「ワールドオールスタージョッキーズ」を開催します。

(4) 国際的な交流の推進

日本馬が海外の競走に出走する際には、関係者への情報提供や連絡調整等の協力を行うとともに、帰国後は速やかに国内競走への出走態勢を整えられるよう取り組みます。

また、円滑な国際交流を進める基盤整備の一環として、関係各国と連携して、競走に関する諸ルールの国際的な調和及び馬の移動に関する諸ルールの整備等に取り組みます。さらに、国際ルールに基づく競走馬の評価システムの運用及び競走の品質管理を通じ、我が国の競馬と競走馬に対する適正な国際的評価の保持を図ります。

2. 競走馬の資質・能力の向上等への取組み

お客様に能力の高い競走馬が出走する質の高い競走を提供するために、競走馬の資質・能力の更なる向上等に取り組みます。

(1) 競走馬の生産育成を通じた取組み

J R Aが生産した馬（J R Aホームブレット）及び1歳市場で購入した馬を、日高・宮崎の育成牧場において育成し、生産からのプロセスを含む育成方法の研究や技術開発を行い、その成果を競馬サークルへ普及・啓発します。また、育成した競走馬（J R A育成馬）を売却するJ R Aブリーズアップセールを開催します。

(2) 生産育成基盤の強化

軽種馬生産育成の振興に係る諸事業への支援や諸団体への協力を行います。また、国内生産馬の海外への販路拡大に対する支援に取り組みます。

(3) 競走馬の保健衛生対策

競走馬診療所の業務を着実に実施し、最適かつ高度な獣医療を提供します。また、競走馬の能力向上に資する研究や競走馬の能力を最大限に発揮させるための獣医療技術の研究を行うとともに、その成果を普及していきます。

(4) 競走馬の事故防止対策

競走馬の事故防止に資する調査研究や馬場に関する研究を行うとともに、厩舎関係者等に対しその成果を普及・啓発します。また、競馬場やトレーニング・センターの馬場の保全管理等を着実に実施します。

(5) 競走馬の暑熱対策

暑熱対策として、競馬場の厩舎への空調設備の新設等の施設整備を行うとともに、夏季において、下見所の周回時間短縮等の取組みを実施します。また、競走馬の熱中症予防に関する研究を進めるとともに、研修等を通じて厩舎関係者への啓発を行います。

(6) 防疫体制の整備

入厩検疫や予防接種等を確実に実施することで、馬インフルエンザをはじめとする馬伝染病の予防と拡散の防止に取り組みます。また、海外からの馬伝染病の侵入を防止するために必要な調査研究を行い、防疫体制の強化を図ります。

(7) 競走関連施設の充実

美浦トレーニング・センターにおける厩舎の改築や坂路馬場の改造、栗東トレーニング・センターにおける検疫厩舎の改築や追馬場の新設等の工事を行います。

(8) 馬主活動の促進

将来にわたり継続して多くの馬主に競馬に参加していただけるよう、馬主の新規開拓と活動促進に取り組みます。

(9) 厩舎運営の活性化

厩舎運営に関する各種制度を適正に運用するとともに、その運用状況の検証等を踏まえた総合的な改善に取り組み、厩舎運営の活性化及び競争性の確保を図ります。

(10) 厩舎関係者の養成等

より質の高い騎手・厩務員を安定的に送り出すため、競馬学校において実践的かつ体系的な指導・教育を実施します。

また、厩舎関係者に対する研修を実施し、技術及び知識の向上を図ります。

さらに、見習騎手の騎乗数の増加及び騎乗技術の向上を図るため、引き続き「ヤングジョッキーズシリーズ」を実施します。

3. 競馬の公正確保等の徹底

お客様から信頼される競馬を着実に実施するため、競馬の公正を確保し、又は競馬の円滑な実施を確保するために万全の態勢を整えるとともに、不正事案の防止等に向けた取組みを徹底します。

(1) 登録・免許業務及び制裁等の厳正な実施

馬主・競走馬・服色の登録及び調教師・騎手に対する免許業務について、法令の定めるところにより、学識経験者である公正審査委員の意見を聴いたうえで、厳正に実施します。

また、競馬の公正を確保していくうえで必要な制裁や処分を厳正に行うとともに、競馬の円滑な実施を確保するために必要な措置を行います。

(2) 競馬に対する信頼の確保に向けた取組み

① 薬物の不正使用事案等の未然防止

国際的な薬物規制制度に基づき、禁止薬物等の飼料への混入防止や規制薬物の管理の徹底に努めます。

また、薬物の使用について、関係者への指導・研修を実施します。

② 反社会的勢力排除への取組み

競馬の公正かつ安全な実施に影響を及ぼすおそれのある反社会的勢力を、徹底的に排除します。

③ 自主警備体制の整備

厩舎エリアの警備を徹底するとともに、お客様エリア等における安全確保や違法行為の防止措置等を適切に実施します。

④ 厩舎関係者のコンプライアンスの徹底

J R Aへの情報提供の専用窓口（ホットライン）を設置するほか、厩舎関係者を対象とした研修を実施し、コンプライアンスに対する意識の徹底を図ります。

(3) 裁決事項の協調等

裁決事項に関する国際協調を推進するため、国際会議等を通じて、海外競馬主要国との相互理解を深め、各国共通で運用可能なルールを策定するとともに、地方競馬全体を管理・統括する地方競馬全国協会との裁決事項に関する協調策について必要な改善を図ります。

また、J R Aホームページでの裁決や制裁内容の公表、パトロールビデオの公開等、お客様への適切な情報提供を行います。

4. 競馬への参加促進及び販売促進

これまで競馬に触れたことのない方から既に競馬にご参加いただいている方まで、幅広い層のお客様に競馬をお楽しみいただけるよう、各種メディアを通じたプロモーションや広報活動の展開により競馬のイメージ向上と話題喚起を図ります。

また、お客様により競馬を楽しんでいただくため、競馬場やウインズ等における現金投票と電話・インターネット投票の利便性の向上を図るとともに、お客様への情報提供を充実させ、競馬の魅力を多くの方にお届けします。

(1) プロモーションの展開

テレビCM等の広告や、JRA公式競馬エンタメサイト「JRA FUN」を中心としたWEBコンテンツ・SNS等を通じて、競馬の楽しみ方やレースの迫力、馬の美しさ等、競馬の魅力をお伝えするプロモーションを展開します。

また、広く世の中に対して中央競馬のイメージ向上を図るため、ブランド広告を展開します。

(2) 広報活動の展開

テレビ・ラジオによる競馬中継を安定的に提供するとともに、各種メディア等への効果的な情報提供等を通じて、お客様への適切な情報発信やパブリシティの充実に努めます。

また、国際的なスポーツエンターテインメントとしての競馬の魅力を幅広く伝えるため、世界を舞台に活躍する日本馬及び世界のトップホースに関する情報発信を行うとともに、JRAが勝馬投票券を発売する海外競馬について、迅速かつ十分な情報とレース映像等の提供に取り組みます。

(3) 競馬場・ウインズ等の活性化

競馬場やウインズ等は、ライブ感を持って競馬を楽しんでいただくことができる場所であり、多様なお客様層に応じた情報やサービスの提供が可能であることから、その立地や特性を活かした施策を実施します。

特に、開催競馬場は、競馬の魅力を様々な角度からPRすることができる最も重要な拠点であることから、その魅力向上と多様な情報発信に努めます。

① お客様層に応じたアプローチ

競馬場において、競馬初心者を対象としたビギナーズセミナーを実施するとともに、女性のお客様にご利用いただける「UMA JOスポット」を設置します。また、ご家族連れのお客様にもお楽しみいただける環境の整備に取り組みます。

さらに、競馬場やウインズ等の指定席について引き続き弾力的な指定

席料金を設定するとともに、ウインズのエクセルフロアについてネット予約の対象を拡大します。また、QRチケットにより競馬場にご入場いただけるスマート入場について、更なる利便性の向上に取り組みます。

② 京都競馬場グランドオープン

令和2年11月より整備工事を行っている京都競馬場について、令和5年4月にグランドオープンを迎えることから、各種イベント等を実施します。

③ 周年記念イベント等の実施

開設90周年を迎える東京競馬場及び開設70周年を迎える中京競馬場・ウインズ名古屋・ウインズ神戸において、記念イベント等を実施します。

④ ウインズ・デーの実施

全国のウインズ等において、日頃からウインズ等をご利用いただいているお客様に感謝の意を表する日として、「ウインズ・デー」を実施します。

(4) 勝馬投票の利便性の向上

① UMACA投票（キャッシュレス投票）の利用促進

UMACA投票について、更なる新規加入者の獲得や利用促進に向け、新たに「JRA-UMACAポイント」サービスを開始します。

② スマッピー投票の利用促進

スマッピー投票（二次元コードを利用）について、すべての事業所でご利用いただける環境の整備を進めるとともに、利用促進に向けたキャンペーンを実施します。

(5) 電話・インターネット投票会員の加入促進及び会員向けサービスの充実

① 電話・インターネット投票会員の加入促進

「簡単、直ぐに加入、投票できる」、「WIN5、海外競馬を購入できる」インターネット投票の魅力をもっとPRすることで、「即PAT」を中心に更なる加入促進を図ります。

② サポート体制の充実

電話・インターネット投票に関する様々なお問合せに的確にお答えするため、電話、メールを用いたお問合せ対応体制や、JRAホームページによる情報提供の充実を図ります。

また、安定的なお問合せ対応が可能となるよう、新たなPATサービスセンターを開設するとともに、最新技術を活用したお問合せ対応等の実現に向けて調査・研究を進めます。

③ 電話・インターネット投票会員向けサービスの充実

顧客満足度の向上及び電話・インターネット投票の継続的な利用に向

けて、電話・インターネット投票会員専用の登録制WEBサービス「Club JRA-Net」への登録を促進するとともに、会員限定サービス、各種キャンペーン等によるフォローアップサービスの充実を図ります。

また、引き続きJRAのインターネット投票システムを活用した地方競馬の競走の受託発売を実施します。

④ 電話・インターネット投票の利便性の向上

お客様がより勝馬投票券を購入しやすい環境を整えるため、利便性の高い最新技術の調査・研究を行います。

(6) 払戻金施策

① 払戻率の設定

払戻率は引き続き以下のとおりとします。また、特定の日には特別な払戻率「JRAスーパープレミアム」を設定します。

単勝	複勝	枠連	馬連	ワイド	馬単	3連複	3連単	WIN5
80.0%	80.0%	77.5%	77.5%	77.5%	75.0%	75.0%	72.5%	70.0%

② 払戻金の上乗せ

特定日の指定した競走・投票法において、通常の払戻金に売得金の5%相当額を上乗せする「JRAプレミアム」を実施します。

また、すべての競走・投票法において、通常の払戻金が100円元返しとなる場合に、売得金の範囲内で、払戻金に10円を上乗せする「JRAプラス10」を実施します。

(7) 記念事業等の実施

① 競馬法100周年

勝馬投票券の発売が実現し、今日の競馬の発展の礎となった競馬法が100周年を迎えることから、これを記念する各種イベント等を実施します。

② JRAアニバーサリー

日頃から中央競馬をご愛顧いただいているお客様に感謝の意を表するとともに、JRAのこれまでの歴史を振り返る日として、9月18日(祝・月)に「JRAアニバーサリー」を実施します。

(8) 販売ネットワークの拡充

地方共同ターミナルシステムを活用した地方競馬施設(J-PLACE)での委託発売や、従来の場外発売施設のあり方や形態に捉われない効果的かつ効率的な販売ネットワークの拡充に向けて取り組みます。

(9) お客様への情報提供の充実

① レース映像の充実

お客様により鮮明で迫力のあるレース映像を提供するため、引き続き車載カメラやヴァーチャルカメラ、スーパースローカメラ等の特殊カメラを適宜活用するとともに、新たな映像技術の研究を行います。

② 競走馬トラッキングシステムの導入

レース中継映像に各馬の位置関係をグラフィック表示すること等が可能となる競走馬トラッキングシステムを導入し、お客様により分かりやすいレース映像を提供します。

③ J R Aホームページの充実

競馬に関する様々な情報の提供を行っているJ R Aホームページについて、操作性・視認性を改善するとともに、提供する情報の充実を図ります。

④ 映像提供施設「V I E S T A (ヴィエスタ)」の運営

宮城県仙台市において、勝馬投票券の発売を伴わない映像提供施設「V I E S T A (ヴィエスタ)」を運営し、競馬場・ウインズ等がないエリアで、新規のお客様をはじめとして、より多くのお客様に競馬の魅力を発信します。

(10) お客様関連施設の充実

① 京都競馬場整備工事

令和7年に開設100周年を迎える京都競馬場について、引き続き整備工事を行います。(新スタンドについては、令和5年2月竣工予定)

② 阪神競馬場スタンドリフレッシュ工事

お客様により快適かつ安全に競馬を楽しんでいただける環境を整えるため、引き続き阪神競馬場のスタンドリフレッシュ工事を行います。

③ 宮崎育成牧場諸施設整備工事

施設等が老朽化した宮崎育成牧場の諸施設整備工事の一環として、引き続きウインズ棟の改築や公園地区の整備、駐車場の拡充等を行い、更なる安全性や利便性等の向上を図ります。

④ 中山競馬場馬場照明設備増設工事

冬期間の中山競馬における最終レース発走時の馬場の照度を確保するため、馬場照明設備の増設工事を行います。

⑤ 競馬場の施設・設備の改善

お客様がより快適に競馬を観戦できる環境を整備するため、競馬場におけるスマートシートの改修を行います。

また、引き続き、競馬場のターフビジョン及び競馬場のパドックに設置されている屋外表示装置の更新を進めます。

5. ホスピタリティの向上

競馬場やウインズ等にご来場されたお客様により快適に競馬を楽しんでいただくため、接客体制や観戦環境の充実に取り組み、ホスピタリティの向上に努めます。

(1) 接客対応の改善

スタッフそれぞれが専門の役割・業務を全うし、お客様一人ひとりに誠実できめ細やかな対応をするため、接客改善に向けた研修の実施やマニュアルを整備するなど、接客対応の改善を図ります。

(2) インフォメーション機能の充実等

お客様の多様なニーズに即応した良質できめ細やかなサービスや情報を提供できるよう、インフォメーション機能を充実させます。

また、お客様によりスムーズにストレスなく施設をご利用いただけるよう、競馬場・ウインズ等において、統一的なサインシステムに基づくサイン（案内・誘導等）の改善を行います。

(3) 観戦環境等の向上

競馬場に来場されたすべてのお客様が快適かつ安全に競馬を観戦できるよう観戦マナー向上の啓発やクリーンキャンペーン、場内装飾等による環境美化等に取り組みます。

6. 馬事の振興及び馬の福祉の充実

我が国の馬文化を支え、競馬を健全に発展させるため、馬事の振興を図るとともに、馬の福祉の充実に努めます。

(1) 乗馬の普及

乗馬人口の拡大を図るため、各事業所において、初心者乗馬教室の開催や乗馬スポーツ少年団の活動支援等を通じて、乗馬を行う機会を提供します。また、競馬開催時をはじめとして、お客様に「馬」への理解を深めていただけるよう、体験乗馬や馬車試乗会等、馬と触れ合うイベントを実施します。

(2) 馬術の振興

馬術の振興を図るため、馬術競技会の開催や馬術競技等に関する諸事業への協力を実施するとともに、こうした取組みにより、競馬開催や馬術の指導等の業務に必要なJRA職員その他競馬関係者の技術の向上を図ります。また、馬術競技への更なる興味喚起を図るため、映像情報の提供等、馬術競技の積極的な情報発信に努めます。

なお、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の馬術競技会場として使用したJRA馬事公苑については、今後の日本の馬事振興の拠点に相応しい施設とすべく、引き続き整備工事を行います。(令和5年10月竣工予定)

(3) 馬事文化の発展への寄与

「馬の博物館」及び「競馬博物館」における展示や「JRA賞馬事文化賞」の表彰等を通じて、馬事文化の発展に寄与するとともに競馬への理解の促進を図ります。また、全国各地に伝わる伝統馬事芸能等の馬事文化や在来馬種の保存に協力します。さらに、競馬情報発信基地「Gate J.」(東京・大阪)を通じて、競馬や馬に関する幅広い情報を提供します。

また、根岸競馬記念公苑の整備工事を行います。(令和9年5月竣工予定)

(4) 引退競走馬のセカンドキャリアの促進及びその養老等に関する取組みの推進

乗用馬や競技馬への転用等、引退競走馬のセカンドキャリア促進を支援するとともに、これに資するリトレーニング技術の研究・検証に取り組みます。

また、障がい者乗馬やホースセラピー活動、大学・高校馬術部の支援等に取り組み、引退競走馬をはじめとする馬の多様な利活用の促進を図ります。

さらに、引退競走馬の養老等に取り組む団体等への支援を行うなど、馬の福祉の充実に努めます。

7. 持続的な発展に向けた取組み

中央競馬を持続的に発展させるとともに、持続可能でよりよい社会の実現に貢献するため、社会貢献活動や環境問題等に積極的に取り組み、これらを広く社会に伝えることで、社会に愛され信頼される中央競馬を目指します。

(1) 社会貢献活動

① 地域社会との連携・協調

各事業所において防災意識の向上を図るとともに、防災備蓄品を十分確保するなど、広域避難場所として指定されている競馬場をはじめとした各事業所において、地域社会の防災対策に貢献できるよう取り組みます。また、自然災害等が発生した場合には、その影響を受けた自治体等に対して各種支援を行います。

さらに、競馬場等の事業所周辺において、「馬」を利活用した地域のイベント等への協力や地域住民の皆様楽しんでいただける催し物等、地域に根ざした様々な取組みを行い、地域社会との連携・協調を図ります。

② 事業所周辺の整備に関する取組み

競馬開催日における競馬場やウインズ周辺地域の交通対策を適切に実施することにより、地域社会との良好な関係づくりに努めます。

また、競馬場やウインズ周辺の道路整備をはじめとする事業所周辺の環境整備に協力します。

③ 畜産振興への支援（畜産振興事業）

畜産分野に係る喫緊の対応が必要な事業や安全・安心な畜産物の供給に関わる事業、馬の防疫体制の整備、激甚災害の被災地に対する事業支援等、畜産の振興に資するための事業に関し、特別振興資金を活用して交付金を交付します。

また、各事業の実施に際しては、団体に対し事業成果の普及を促すとともに、前年度終了事業を評価し、その結果を公表します。

(2) 環境への取組み

JRAでは、自然や生き物からの恵みを享受して事業活動を行っていることに鑑み、地球環境と地域環境の保全を通じて持続可能な社会の構築に貢献するため、事業活動に伴い生じる環境への負荷を極力抑制しながら環境との調和を図ります。

また、事業活動に伴う環境負荷を限りなくゼロに近づける「ゼロ・エミッション」の将来的な達成に向けた取組みを推進します。

① 資源循環型社会の構築への貢献

競馬事業に伴い発生する排出物の総量を抑制します。また、競馬開催に伴う排出物や事務エリアで発生する排出物のリサイクルを推進します。

② 地球温暖化防止

全体的なエネルギーコントロールや省エネルギー機器の導入等により、事業活動に伴う温室効果ガスの排出を極力抑制します。

また、太陽光発電システムや、トレーニング・センターで発生する使用済み馬房敷料を燃料として利用するバイオマス燃焼発電プラントの安定的な運用等、自己保有施設で創出する再生可能エネルギーの利用により、温室効果ガスの排出量を抑制します。

③ 地域社会との調和

周辺清掃や、周辺道路の交通対策等を適切に実施し、事業所周辺の環境への負荷を極力抑制します。

④ 環境マネジメントの推進

環境関連法令を遵守するとともに、組織的な環境マネジメント体制を構築・堅持します。また、廃棄物の適正処理の徹底や、自然エネルギーによって発電された電力を使用して当日の競馬開催に必要な電力を賄うクリーンエネルギー競馬の実施をはじめとした環境コミュニケーションの適切な実施等に取り組みます。

(3) 組織の運営等に関する取組み

① 法令遵守と透明性の確保

i) コンプライアンスに関すること

法令・社会規範の遵守や企業倫理の徹底等により、J R Aの事業運営及び役職員の日々の行動が十分な適正性を有し、社会的な信頼を確保するものとなるよう、引き続きコンプライアンス体制を整えていきます。

ii) 個人情報、法人文書等の管理に関すること

「個人情報の保護に関する法律」「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」「公文書等の管理に関する法律」の規定に基づき、J R Aの保有する個人情報、法人文書等を適切に管理します。

iii) 情報公開に関すること

「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」等の規定に基づき、J R Aの保有する法人文書の開示請求等に適切かつ迅速に対応します。また、J R Aホームページ等を活用し、J R Aの経営に関する情報等を公開し、透明性・信頼性等を確保するとともに企業イメージの向上を図ります。

iv) 契約・入札等に関すること

契約・入札の更なる適正化に向けて、不断の点検を行い、契約の競争性の向上を図るとともに、契約手続の透明性を確保するため工事の発注及び調達に関する情報等についてJ R Aホームページに公開します。

② 勝馬投票に関わる違法行為等の防止

勝馬投票に関わる違法行為の防止に積極的に取り組むとともに、違法行為があった際は、厳正に対処します。

i) ノミ行為、違法インターネット賭事、悪質な競馬情報提供会社による被害等の防止

ノミ行為や違法インターネット賭事等の違法行為の防止のため、JRAホームページ等の各種媒体を通じてお客様への注意喚起を積極的に行うとともに、これら違法行為等に関する情報を収集し、警察等関係機関と連携を強化するなど、違法行為の防止に努めます。

また、競馬情報提供会社等に関する情報の収集に努め、悪質なものに対しては、必要な措置を講じるとともに、各種媒体を通じてお客様への注意喚起を行います。

ii) 20歳未満の者の勝馬投票券購入防止

20歳未満の者が勝馬投票券を購入することのないよう、レーシングプログラムやポスター等で周知を図るとともに、競馬場やウインズ等における確認・注意喚起を徹底するなど、適切な対策を講じます。

③ 社会貢献活動や環境への取組み等に関する発信

JRAの社会貢献活動や環境への取組み等について、それらの認知度向上や理解促進を図るため、各種メディアを通じてより広く社会に発信します。

(4) 事業基盤の強化に関する取組み

① 人材の確保等に向けた取組み

i) 人材確保及び人材養成

騎手を志望する中学生を対象とした「JRAジュニアユース」活動や、厩舎や牧場への就業を支援する取組み等を通じて、将来にわたる競馬サークルの人材確保に努めます。

また、大学と連携した講義に積極的に取り組み、競馬や馬文化への理解醸成やスポーツエンターテインメントとしての競馬の認知度向上を図るほか、獣医系・畜産系学生を対象に研修セミナーを実施し、馬獣医療等に携わる人材養成に協力します。

さらに、中央競馬事業を着実に運営するとともに、今後の発展につながる施策を着実に実施していくため、研修等を通じてJRA職員等の養成に取り組めます。

ii) 次世代育成

幼少期から馬に対する理解を深めていただけるよう、小学校や幼稚園等の教育機関に馬を派遣するほか、馬に携わる仕事やその魅力を積極的に発信するため、引き続きキッズニア甲子園に「ホースパーク」パビリオンを出展します。

また、全国各地で乗馬に励む子供達が参加できる「ジョッキーベイベーズ」を開催します。

② 危機管理体制の強化

将来にわたり安定的かつ持続的な事業運営を行うため、大規模自然災害発生等を想定した事業継続体制の構築に取り組みます。

また、本会施設の防火防災体制の強化を図るとともに、厩舎関係者や役員等競馬サークル全体で新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底します。

③ 情報セキュリティの確保

不正アクセスや情報漏えい等のもたらす影響の重大さに鑑み、国のセキュリティ対策機関と連携して、最新の対策に関する情報収集に努めるとともに、情報セキュリティに関する研修や技術的な対応の推進、外部機関の点検による評価を行うことで、常時、情報セキュリティ体制の維持に取り組みます。

④ コンピューターシステムの更新及び全体最適化

競馬開催及び事業運営に関わるコンピューターシステムについて、信頼性・安定性確保の観点から必要な機器の更新を行います。また、併せて効率的なコンピューターシステム運用及びコスト削減を図るため、仮想化等の技術を適宜活用し、引き続きコンピューターシステムの全体最適化を進めます。

⑤ 効率的・安定的な事業運営

柔軟で効率的な働き方やAI等の技術を活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進するとともに、経費負担の抑制に取り組み、事業運営の更なる効率化・安定化を図ります。

⑥ ギャンブル等依存症対策

安心して中央競馬をお楽しみいただける環境を提供するため、ギャンブル等依存症対策基本法に基づき閣議決定されたギャンブル等依存症対策推進基本計画等を踏まえ、研修等を通じて役職員が正しい知識に基づく認識を持つとともに、お客様への注意喚起・知識の普及啓発、お客様からの相談対応体制の整備、競馬場・ウインズ等への入場制限、電話・インターネット投票の利用停止や購入上限額の設定等を引き続き実施します。

⑦ 国際協調及び国際協力の充実

国際競馬統括機関連盟副会長国として、各国関係組織・機関と連携・協調し、競馬の健全な発展に貢献するとともに、同連盟とのパートナーシップを通じ、国際競馬社会における日本競馬の位置付けを確固たるものとするよう努めます。また、アジア競馬連盟副会長国として、アジア諸国と幅広く交流及び連携するとともに、我が国を含めた域内全体の競馬のより一層の発展に貢献するよう努めます。

さらに、国境を越えて行われる違法賭事について、海外競馬統括機関等

と協調し必要な対応を行います。

加えて、交換競走を通じて、各国主催者との交流や情報交換を促進し、相互理解を図ります。